

校名	府立 守口支援 学校
校長名	青木 康子

開催日時	令和 6年 11月 1日(金) 15:30 ~ 17:00
開催場所	府立守口支援学校 B棟2階 図書室
出席者(委員)	長谷川 陽一会長(桃山学院教育大学教授)、森口 久子委員(学校医)、盛田 昭一委員(錦コミュニティ協議会会長)、東 恵美委員(門真公共職業安定所統括職業指導官)、佐々木 幸子副会長(守口市教育センター長、欠席)、藏満 翔子委員(PTA会長、欠席)
出席者(学校)	青木校長、古賀教頭、田鶴谷教頭、松岡事務長、下田首席、西川首席、永山首席、坂上高等部主事、南中学部主事、和田小学部主事、堀川健康安全部長、築山進路指導部長、安藤支援自立活動部長、室田研究推進部長、万代養護教諭
傍聴者	0名
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度 学校経営計画の進捗状況 ・令和6年度 学校教育自己診断 ・安全衛生だより
備考	

議題等(次第順)

- 1、学校長挨拶
- 2、学校運営協議会会長挨拶
- 3、今年度の学校経営計画の進捗状況について
- 4、教育活動についての報告と意見交換
- 5、学校教育自己診断について

協議内容・承認事項等(意見の概要)

1. 学校長挨拶
 - ・むつみ祭への参加依頼
 - ・インフルエンザやマイコプラズマ肺炎の流行による健康管理への取り組み強化(児童生徒・教職員)
2. 学校運営協議会会長挨拶
 - ・大学の生徒の教育実習受入校への学校訪問を通じて、特別支援教育のノウハウが広がっていることを実感している。
 - ・特別支援教育の一環であるPBS(ポジティブ行動支援)の実践報告が多くなってきていて、支援アプローチの充実を確認。
3. 今年度の学校経営計画の進捗状況について(校長)
 - ・昨年度の総括と次年度への課題を踏まえ、計画が概ね順調に進捗していることを報告。
 - ・「良い学校とは」をめざし、児童生徒や教職員にとっての理想の学校像を議論。「チーム守口」の一員としてベクトルを合わせてそれぞれの活動を進めている。
 - ・昨年度は役割と責任の明確化をめざし、今年度は定着に向かっていく状況。
 - ・文科省発表の不登校問題にも触れ、生徒が「明日も学校に行きたい」と思えるような環境づくりをめざす。
4. 教育活動についての報告と意見交換
 - (1) 小学部からの報告(小学部主事)
 - ・宿泊学習(五年生、アミティ舞洲)
 - ・修学旅行(六年生、姫路方面)
 - (2) 中学部からの報告(中学部主事)
 - ・宿泊学習(二年生、アイアイランド)
 - ・修学旅行(三年生、名古屋方面)
 - (3) 高等部からの報告(高等部主事)
 - ・宿泊学習(二年生、泉南方面)
 - ・来週には3年生の修学旅行の予定。

(4)NHK主催 放送教育に関わる研究助成報告（担当首席）

NHKが主催する放送教育に関わる研究助成にエントリーし、各学部から一グループずつ申請。この助成金を利用して、子どもたちの学習に活用できる教材を購入する目的。

(5)メンタルヘルス研修報告（安全衛生委員会チーフ）

8月28日に、本校産業医 森口先生を招き、学校安全衛生委員会主催で研修を実施した。
テーマは「職場と自分を見直そう」で森口先生による講義、グループワークが実施された。

(6)支援自立活動部研修報告（支援自立活動部長）

1. もりぐち支援lab
・目的：校内教員向けの専門性向上研修
2. 守口門真支援lab
・目的：守口市・門真市の小中学校教員向け研修
3. 北河内支援教育lab
・目的：北河内地域及び支援学校の教員向け研修

(7)事前に意見集約した質問への回答

・質問：新入学1年生20名がどのように学校に馴染んでいったか。その様子を教えてほしい(第一回運営協議会より)
・回答：(小学部主事) 特別な指導は行っていないが、教室調整を行い、広いスペースを活用して授業を展開している。今年は1学期を通じて慣れるのに時間がかかった印象があるが、6月頃には学校に楽しんで通う児童が増え、クラス間の交流も見られるようになった。

・質問：卒業生のアフターフォローについて教えてほしい。
・回答：(進路指導部長) 卒業生の進路定着支援のため、就労先へ担任が訪問。卒業生の状況を把握し、関係機関との情報共有を行っている。また、卒業後2年間の進路相談近況報告会を実施、同窓会感覚で近況を報告できるとして参加家庭も増加している。今年度は2回目を12月に予定している。

5. 学校教育自己診断について（担当首席）

・昨年度の保護者の回収率は70%未満。他校と比較して項目数が多かった（昨年度は教職員が49項目、保護者が33項目）ため、必須項目を残して内容を精選し、回収率向上をめざす。
・教職員用診断票は、今年度は28項目を設定。回答はGoogleフォームを使用し、QRコードでアクセスして行う。
・保護者用診断票は、今年度は18項目を設定。昨年度はマークシート形式だったが、今年度は片面印刷で丸チェック方式に変更した。

(委員からの意見)：

・質問項目の簡素化と回収率向上は重要で、保護者からの回答率100%が目標であることを強調。
・保護者用診断票から通学バスに関する項目が削除されている点を指摘。
・担当首席の回答：通学バスの情報はアプリを通じてリアルタイムで保護者が確認できるようになるなど、利便性が向上し、項目を削除しても問題ない等、理由を説明した。

結論

・他の委員からの特に意見はなく、学校教育自己診断については了承され、協議は終了。

6. (全体を通して) 委員からの感想・意見・質問

・NHKに関する教育放送の取り組みについて質問。学校での映像視聴と助成金についての詳細を確認。
(担当首席の説明) NHKとの連携があり、助成金制度が小中高で同額で適用されることを説明。授業での活用状況を発表することで助成金の申請が可能であることを強調。
・もりぐち支援Labや門真支援教育labの取り組みを称賛。特に、支援学校がノウハウを広めることが地域に貢献することを評価。
・学校の取り組みや教育活動の具体的な報告が分かりやすかったとの感想を述べる。
・学校へ行きたくない子どもたちの増加を指摘し、支援学校の取り組みがその課題を解決する方向に進んでいることに期待。
・多面的に子どもたちの状況を報告してもらったことで、子どもたちが学校の教育を楽しみにしている様子がわかったとし、教員たちの準備や努力に感謝を述べる。

次回の会議日程

日時	令和 7年 2月 12日(水) 15:30 ~
会場	府立守口支援学校 B棟2階 図書室